

令和 4 年度

網走市における景気動向調査

<第Ⅱ四半期>

報 告 書

網 走 商 工 会 議 所

目 次

第1章 調査要領

1-1	調査時点及び調査対象期間	1
1-2	調査対象	1
1-3	調査方法	1
1-4	回収状況	1

第2章 概況

2-1	全体の動き	2
2-2	業種別の動き	3
1)	建設業	3
2)	製造業	4
3)	卸売業	4
4)	小売業	5
5)	サービス業	5

第3章	業種別設備投資の状況	6
-----	------------	---

第4章	業種別経営上の問題点	7
-----	------------	---

第5章	業界の景気動向等その他のご意見	8
-----	-----------------	---

第1章 調査要領

1-1. 調査時点及び調査対象期間

- (1) 調査時点：令和4年7月1日（金）～令和4年9月30日（金）
- (2) 調査対象期間：令和4年7月～9月期実施、及び令和4年10月～12月見通し

1-2. 調査対象

網走市に所在する建設業（30件）、製造業（24件）、卸売業（20件）、小売業（40件）、サービス業（44件）の158社を調査対象とした。

1-3. 調査方法

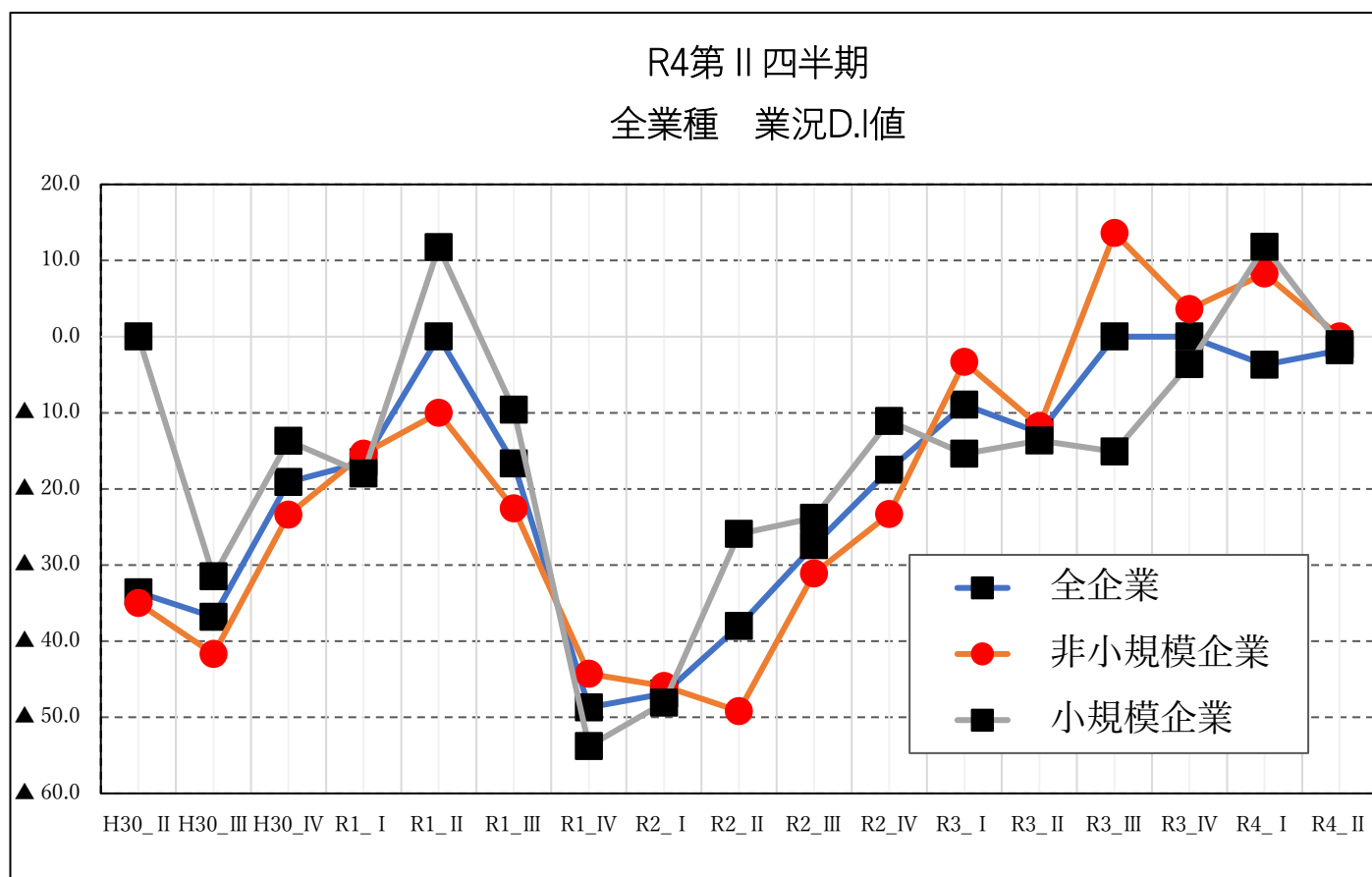
調査対象に案内文と調査票を送付し、FAXもしくは同封の返信用封筒による郵送、インターネット（Google フォーム）による返信にて回答を受ける。

1-4. 回収状況

業種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
建設業	30 件	25 件 (非小規模企業：11 件) (小規模企業：14 件)	83.3 %
製造業	24 件	15 件 (非小規模企業：7 件) (小規模企業：8 件)	62.5 %
卸売業	20 件	11 件 (非小規模企業：8 件) (小規模企業：3 件)	55.0 %
小売業	40 件	27 件 (非小規模企業：14 件) (小規模企業：13 件)	67.5 %
サービス業	44 件	32 件 (非小規模企業：15 件) (小規模企業：17 件)	72.7 %
合計	158 件	110 件	69.6 %

第2章 概況

2-1. 全体の動向



令和4年度第Ⅱ四半期（7月～9月）の全企業業況は、前年同期に比べ、「好転企業」30.0%、「悪化企業」31.8%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I値は△1.8となり、前回（D.I値△3.6）に比べ、その差は1.8ポイント改善傾向となっています。

非小規模企業の業況は前年同期に比べ、「好転企業」15.0%、「悪化企業」15.0%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I値は0.0となり、前回（D.I値8.3）に比べ、その差は8.3ポイント悪化傾向となっています。

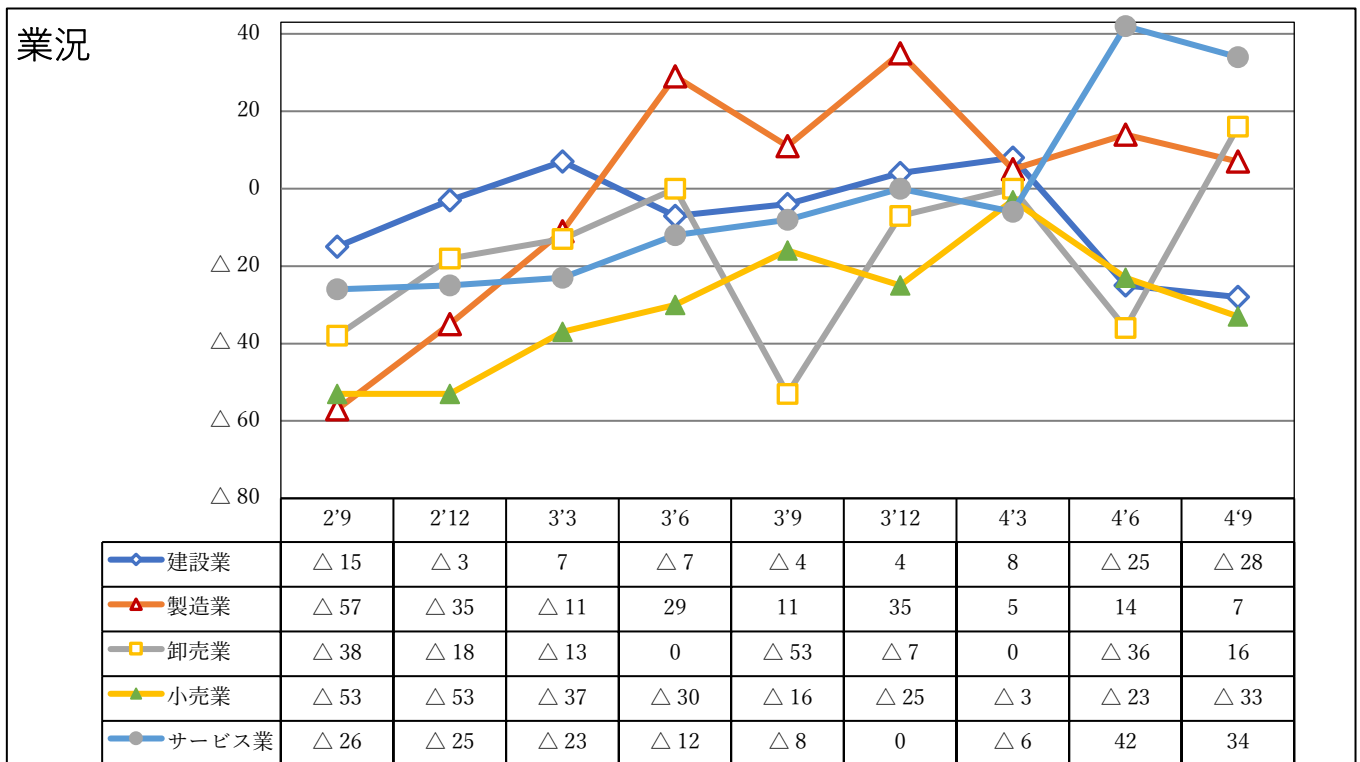
小規模企業の業況は前年同期に比べ、「好転企業」18.0%、「悪化企業」19.0%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I値は△1.0となり、前回（D.I値11.8）に比べ、その差は12.8ポイント悪化傾向となっています。

次期（10月～12月）見通しとして全企業の業況は、今期に比べ、「好転企業」16.4%、「悪化企業」30.0%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I値は△13.6となり、前回（D.I値△10.9）に比べ、その差は2.7ポイント悪化傾向となっています。

非小規模企業の次期業況見通しは今期に比べ、「好転企業」10.0%、「悪化企業」18.0%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I値は△8.0となり、前回（D.I値△4.7）に比べ、その差は3.3ポイント悪化傾向となっています。

小規模企業の次期業況見通しは今期に比べ、「好転企業」8.0%、「悪化企業」15.0%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I値は△7.0となり、前回（D.I値△2.6）に比べ、その差は4.4ポイント悪化傾向となっています。

2-2. 業種別の動向



1) 建設業

完成工事高

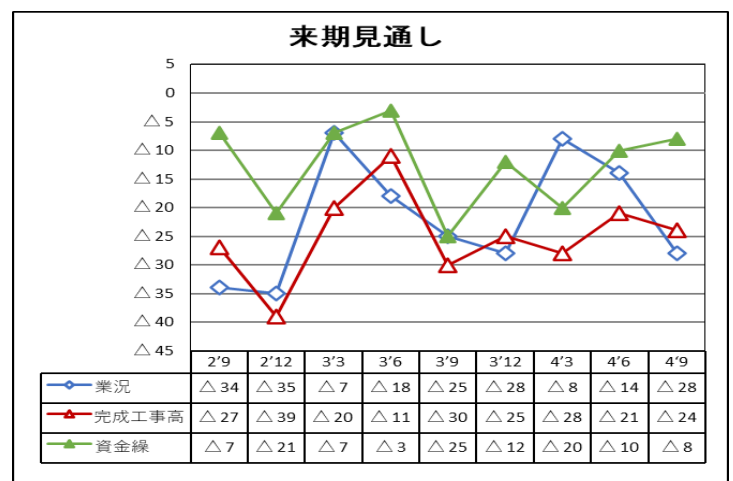
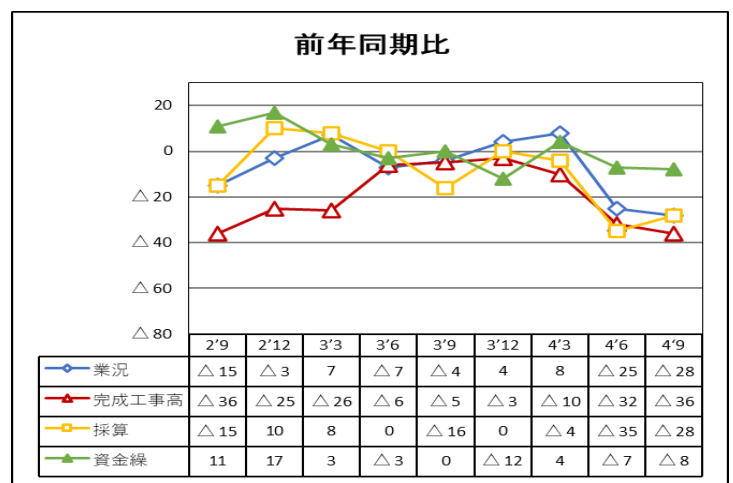
前年比で「好転企業」12.0%、「悪化企業」48.0%、D.I.値△36.0と前年同期（△5.8）に比べ 31.0 ポイントの大幅な悪化となりました。

採算

前年比で「好転企業」16.0%、「悪化企業」44.0%、D.I.値△28.0と前年同期（△16.6）に比べ 11.4 ポイントの悪化となりました。

来期見通し

業況 D.I. 値△28.0（前年同期 D.I. 値△25.0）、完成工事高 D.I. 値△24.0（同△30.5）、資金繰り△8.0（同△25.0）と前年同期に比べ、完成工事高と資金繰りで改善傾向となりました。



2) 製造業

生産高

前年比で「好転企業」35.7%、「悪化企業」28.6%、D.I.値 7.1 と前年同期（11.8）に比べ 4.7 ポイントの悪化となりました。

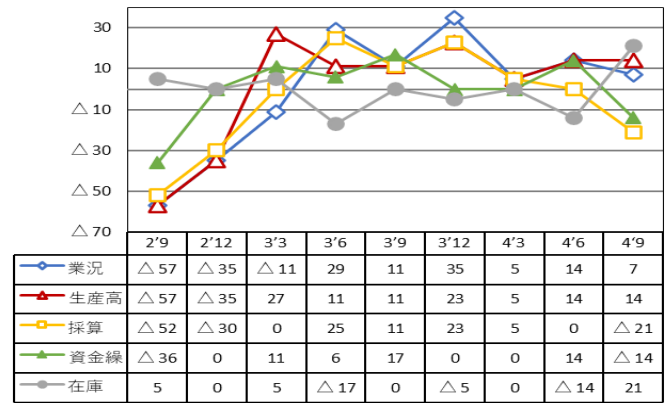
採算

前年比で「好転企業」14.3%、「悪化企業」35.7%、D.I.値△21.4 と前年同期（11.8）に比べ 33.2 ポイントの悪化となりました。

来期見通し

業況 D.I. 値△7.1（前年同期 D.I. 値 12.5）、生産高 D.I. 値 7.1（同 6.3）、資金繰り 7.1（同 12.5）と前年同期に比べ、業況と資金繰りで悪化傾向を示しました。

前年同期比



来期見通し



3) 卸売業

売上高

前年比で「好転企業」41.7%、「悪化企業」25.0%、D.I.値 16.7 と前年同期（0.0）に比べ 25.0 ポイントの大幅な改善となりました。

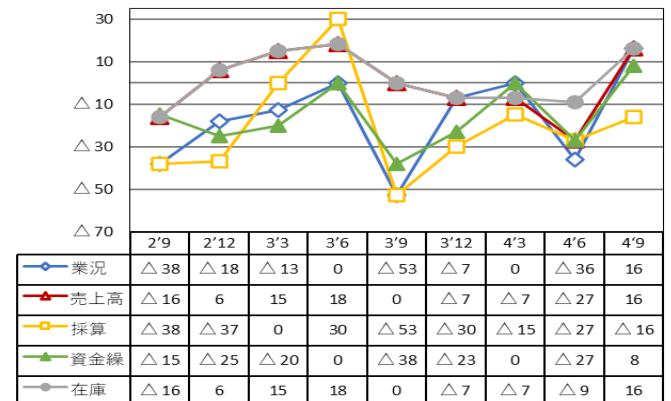
採算

前年比で「好転企業」25.0%、「悪化企業」41.7%、D.I.値△16.7 と前年同期（△53.3）に比べ 36.6 ポイントの大幅な改善となりました。

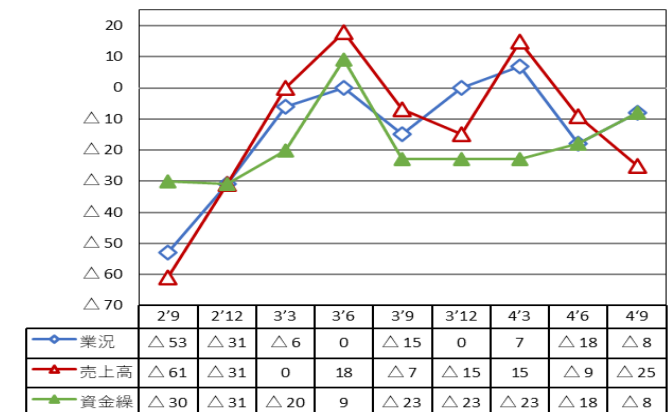
来期見通し

業況 D.I. 値△8.3（前年同期 D.I. 値△15.4）、売上高 D.I. 値△25.0（同 7.7）、資金繰り△8.3（同△23.1）と前年同期に比べ、業況と資金繰りで改善傾向となりました。

前年同期比



来期見通し



4) 小 売 業

売 上 高

前年比で「好転企業」14.8%、「悪化企業」51.9%、D.I.値△37.1 と前年同期（△12.5）に比べ 24.6 ポイントの大幅な悪化となりました。

採 算

前年比で「好転企業」11.1%、「悪化企業」40.7%、D.I.値△29.6 と前年同期（△17.4）に比べ 12.2 ポイントの悪化となりました。

来期見通し

業況 D.I. 値△7.4（前年同期 D.I. 値△16.7）、売上高 D.I. 値△14.8（同△16.6）、資金繰り 0.0（同△25.0）と前年同期に比べ、全ての見通しで改善傾向を示しました。

5) サービス業

売 上 高

前年比で「好転企業」59.4%、「悪化企業」15.6%、D.I.値 43.8 と前年同期（△5.8）に比べ、49.6 ポイントの大幅な改善となりました。

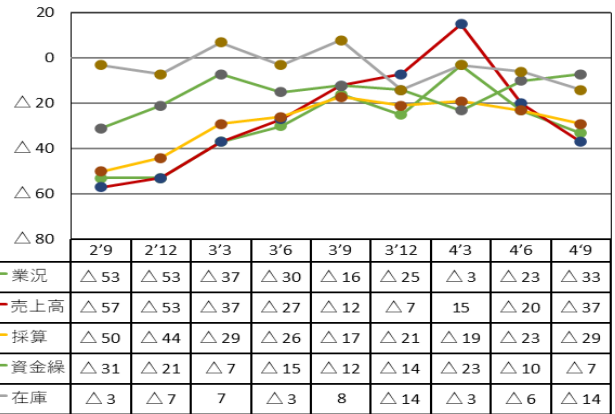
採 算

前年比で「好転企業」46.9%、「悪化企業」12.5%、D.I.値 34.4 と前年同期（△11.7）に比べ 46.1 ポイントの大幅な改善となりました。

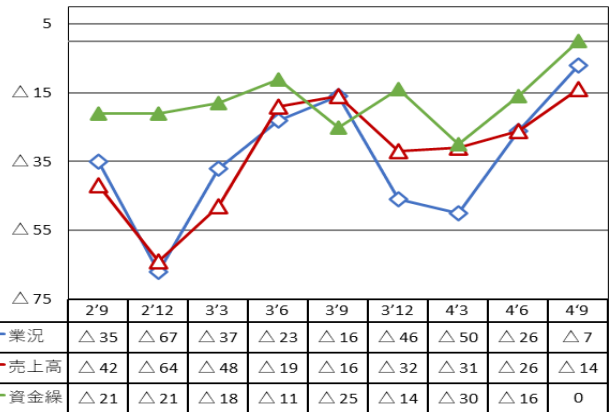
来期見通し

業況 D.I. 値 0.0（前年同期 D.I. 値△3.0）、売上高 D.I. 値 0.0（同△14.7）、資金繰り 3.1（同△3.0）と前年同期に比べ、全ての見通しで改善傾向となりました。

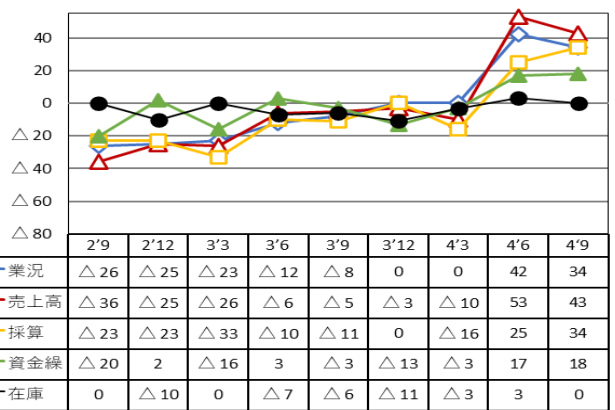
前年同期比



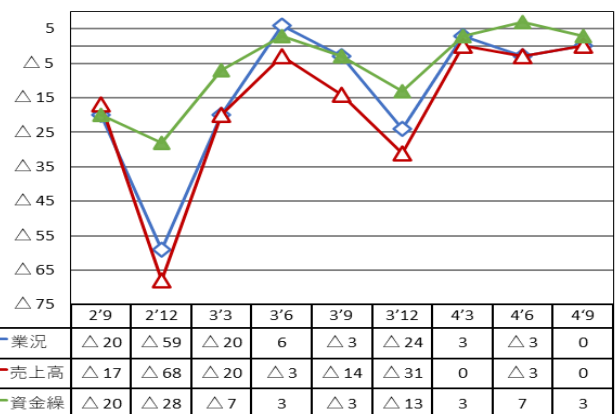
来期見通し



前年同期比



来期見通し



第3章 業種別設備投資の状況

今期の設備投資の有無と設備内容について調査し、業種別に統計しました。

設備投資の有無は表1のとおり、設備内容は表2のとおりです。

表1 業種別設備投資の動向

	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	全業種
実施した	6件	8件	2件	3件	10件	29件
実施していない	19件	6件	10件	24件	22件	81件
合計	25件	14件	12件	27件	32件	110件

表2 業種別設備投資の内容

	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	全業種
土地	0件	0件	0件	0件	1件	1件
店舗	0件	1件	0件	0件	0件	1件
販売設備	0件	0件	1件	1件	1件	3件
車両運搬具	5件	2件	1件	1件	1件	10件
付帯設備	0件	5件	0件	1件	3件	9件
OA機器	1件	2件	0件	0件	2件	5件
福利厚生施設	0件	1件	0件	0件	0件	1件
その他	1件	1件	0件	0件	1件	3件
合計	7件	12件	2件	3件	9件	33件

※複数回答あり

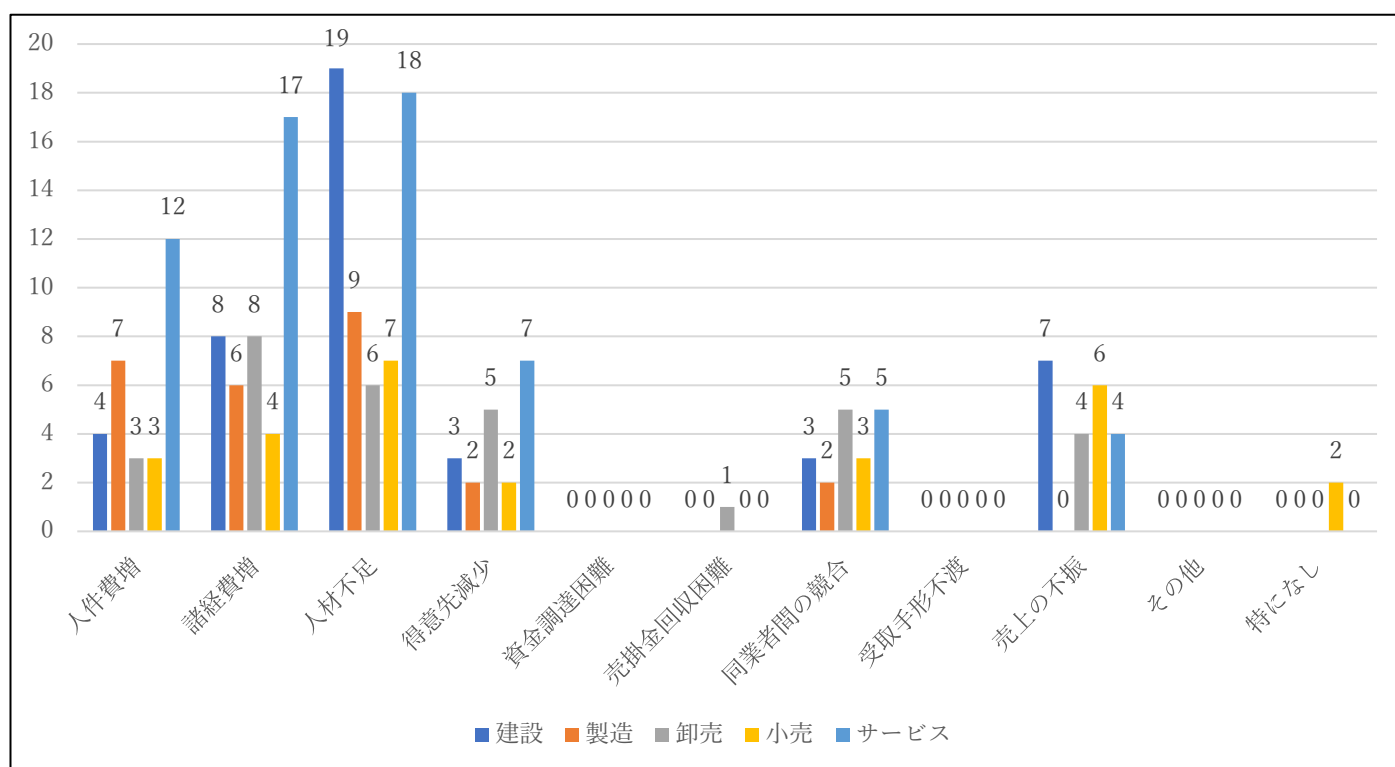
○全業種でみると設備投資に実施したのが29件、実施していないが81件となりました。前回は設備投資を実施したのが21件、実施していないが92件でありました。また、設備内容として最も多かったのは車両運搬具、次いで付帯設備となっています。前回車両運搬具が最も多く、付帯設備が2番目に多く占めていました。

第4章 業種別経営上の問題点

表1 業種別上位

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
建設業	人材不足	諸経費増	売上の不振	人件費増	得意先減少
製造業	人材不足	人件費増	諸経費増	得意先減少	同業者間の競合
卸売業	諸経費増	人材不足	得意先減少	同業者間の競合	売上の不振
小売業	人材不足	売上の不振	諸経費増	人件費増	同業者間の競合
サービス業	人材不足	諸経費増	人件費増	得意先減少	売上の不振
全業種	人材不足	諸経費増	人件費増	売上の不振	得意先減少

グラフ1 業種別件数



※複数回答あり

○全業種でみると前回調査に引き続き、上位5位までの順位に変動はありませんでした。また、業種別でみると、製造業、サービス業で「人件費増」、卸売業、小売業で「諸経費増」が多く占めており、建設業、製造業、小売業、サービス業では前回同様、「人材不足」が多く占めました。

第5章 業界の景気動向等その他のご意見

○業界の問題点について

【建設業】

- ・大工の不足、原材料の異常な高騰。
- ・人材不足は、長らく言われきているが全く改善されない。新規採用をするにも週休2日ですまづいてしまう。業界全体で取組まなければならないのではと思う。
- ・作業員確保が大変です。
- ・若年技術者の不足。
- ・仕事の受注量が激減している。高齢者の退職、死亡。
- ・公共工事に左右されるため、今年は下降の年です。

【製造業】

- ・人材が特に不足しています。
- ・数度に及ぶ用紙、資材の値上げを価格転嫁できるかどうか。
- ・需要は回復傾向が見られるが、原材料、資材光熱費、人件費等の諸経費が上がり利益は向上しない。

【卸売業】

- ・コロナや戦争の影響で輸送費、配送費、原料高騰、為替変動等で物価高騰が続き、歯止めが効かない状況で商品の流通が減少している。(業績悪化につながる)

【小売業】

- ・仕入れが都度、高騰していて販売価格に転嫁するのにも、お客様に申し訳ない。極力、利益を落として吸収するがどこまでこの状況が続くのか？仕入先より高騰理由を明確によりクリアにしてもらいお客様に納得のいく説明を心掛けています。
- ・電気代の高騰と人件費アップがかなり経費を押し上げる。
- ・とにかく募集しても人がきません。特に整備士不足は深刻です。

【サービス業】

- ・10月11日から始まる全国割については、当初が道内客からの取り直し対応が大半であり、本州からの新規顧客がどこまで伸びるのか不透明である。
- ・コロナを機にリモート会議等が増えプリントデータ入出力印刷等の物件が減ったまま、更に国の予算（雑費）が抑えられ開発局の受注が減っている状況が続いている。
- ・売上は、回復傾向にありますが、この先に不安があるのには変わりありません。
- ・喫茶店などはコーヒー豆やメニューの食材費が全て値上がりしている。メニューなどの値段を上げてでも増加分を補填するのは難しい。コロナ禍に加え、ヨーロッパの有事はWパンチを喰らったようだ。持続可能な商売が果たしてできるのか？
- ・市況の変動幅が大きく見積が難しい。
- ・夏季観光の流れが、緩やかだが9月まで続いた事が好材料だが、地元客の特にグループ利用の回復が遅れている。次期はコロナ対策の緩和と旅割の効果に期待すると同時に忘年会などの流れにもつながる事を望んでいる。